【体験授業用教材】 L3J

本科１期４月度１回目

Ｚ会東大進学教室【体験授業用教材（抜粋版）】

東大国語

目次

はじめに……3
要点
1章　古文問題の対策……6
2章　漢文問題の対策……24
3章　現代文問題の対策……44
問題
1章　問題（演習）『宇治拾遺物語』……56
問題（自習）『十訓抄』……58
2章　問題（演習）『住吉物語』……60
問題（自習）『百首異見』……64
3章　添削課題『栄花物語』……66
問題（自習）『源氏物語』……68
4章　問題（演習）『十訓抄』……70
問題（自習）『多武峰少将物語』……72
5章　問題（演習）『史記』……74
問題（自習）『漢書』……76
6章　問題（演習）『梁書』……78
問題（自習）『高僧伝』……80
7章　添削課題『庸問斎筆記』……82
問題（自習）『韓非子』……84

8章 問題（演習）……86
『百憂集行』
問題（自習）……88
元稹の詩
9章 問題（演習）……90
河野哲也『意識は実在しない』
問題（自習）……96
野家啓一『科学の解釈学』
10章 問題（演習）……100
桑子敏雄『風景のなかの環境哲学』
問題（自習）……104
高橋裕『都市と水』
11章 添削課題……108
村上陽一郎『生と死への眼差し』
問題（自習）……112
中村雄二郎『感性の覚醒』
12章 問題（演習）……116
宇野邦一『反歴史論』
問題（自習）……120
多木浩二『写真論集成』
13章 問題（演習）……124
篠原資明『言の葉の交通論』
問題（自習）……130
三善晃『指の骨に宿る人間の記憶』

はじめに

一　Z会の教室　国語の指導方針

国語で安定した得点をとるためには、問題文の主題をとらえて正確に文章構造を見抜く読解力と、読解の結果を「解答」として採点者に正しく伝える言語運用能力を鍛える必要があります。

こうした学力の養成に向けて、国語科では「量」ではなく「質」を重視するというZ会の指導理念に則った指導を行います。むやみに多くの文章を読み流し、ひたすら多くの設問を解くのではなく、一つの文章にじっくりと取り組み、詳細な解説講義を行います。単にその問題をどう解くか、という観点にとどまらず、「同じテーマ・ジャンルの文章にはどのように対処するか」「このタイプの設問にはこうアプローチしていく」といった、他の問題にも応用可能な「考え方」を習得していくことを重視します。これにより、いかなる問題文が出題されても読解・解答できる力を養成します。

二　授業について

授業では「問題（演習）」もしくは「添削課題」を扱います。「問題（自習）」は授業では扱わない、自習用の教材です。

予習

具体的な予習の方法は、受講開始後に担当講師から指示があります。以下は初めてZ会の国語の授業を受ける方への、初回授業の予習の目安です。

まずは文章全体を通読し、中心となるテーマや物語の展開について、大まかな内容を把握します。次にもう一度じっくりと読み通し、より精密に文章の内容を把握していきます。この段階では、必要な箇所では辞書を丁寧に引いて、じっくりと一文一文の内容理解に努めます。最後まで読み通すことができたら、さらにもう一度文章を通読し、議論や物語の展開がしっかりと頭に入ってきているかを確認しましょう。

設問に関しては、あらかじめ完全に解答を作成してくる必要はありません。ただし、可能な範囲で、自分なりに選択肢を選び、また記述解答の骨格を作成してみるとよいでしょう。

※映像授業をご受講の皆様

授業時間内に演習（問題文を読み、設問を解くこと）に取り組むため、原則として予習は不要です。ただし、授業の内容をより効果的に理解するために、事前に問題文に目を通しておくとよい場合があります。

・映像で問題演習の指示が出たら、映像を停止して問題に取り組みましょう。
・映像をご受講いただく前に、各講座のオリエンテーション映像をご覧ください。

授業内

解説授業を行います。問題文の丁寧な読解を通して、語彙の増強・論理構造の把握・文章の背景知識の伝授など、密度の濃い授業を行います。設問の解説では、問題文の正確な内容理解を土台に、選択式・記述式それぞれの設問についての正答に至るための考え方を確認していきます。選択式の問題では、どのように正解の選択肢を見極めていくか、記述式の問題では、設問の要求を見極めて解答を作成する手順を確認していきます。表現の細部にまで徹底的にこだわり、指定字数の長短に応じて、日本語として完結した正確な表現をまとめる訓練をします。

復習

まずは当日のうちに、授業での学習内容を振り返りながら、問題文をもう一度読み直しましょう。現代文では、文章の内容だけでなく、対比や例示といった「論理展開」も十分に意識しながら読み直しましょう。古文・漢文では、一つ一つの文について、意味の分からない語句が残っていないか、また文法的に理解があやふやなところがないかを確認しながら読み進めます。問題文を何度も音読してみることが効果的です。

設問については、「なぜそれが正解になるのか」「なぜこのような解答になるのか」を、他人にも説明できるくらいまで、解答に至る筋道を、本文中に根拠を求めながらもう一度確認しましょう。

授業で習得した読解・解答の方法を確認するため、自習用問題である「問題（自習）」にも取り組んでみましょう。

三　テキストの構成

●要点

入試の概要や、読解・解答作成の基本的な考え方をまとめてあります。

●問題（演習）

授業で扱う問題です。

●添削課題

授業で扱う問題です。

添削課題の取り組み方については、スタッフ・講師からの指示もしくは受講マニュアルに従ってください。

なお、選抜講座は「問題（演習）」にも添削指導が付きます。

●問題（自習）

自宅学習用の問題です。原則として授業では扱いません。

●問題のレベルについて

問題のレベルを★の個数によって三段階で表します。

★…基礎　　★★…標準　　★★★…応用（発展）

【問題】（演習）★★

次の文章を読んで、あとの設問に答えよ。

今は昔、丹後国に老尼ありけり。地蔵菩薩は暁ごとに歩き給ふといふ事をほのかに聞きて、暁ごとに地蔵見奉らんとて、ひと世界惑ひ歩くに、博打の打ちほうけてゐたるが見て、「尼君は寒きに何わざし給ふぞ」と言へば、「地蔵菩薩の暁に歩き給ふなるに、あひ参らせんとて、かく歩くなり」と言へば、「地蔵の歩かせ給ふ道は我こそ知りたれば、ア いざ給へ、あはせ参らせん」と言へば、「あはれ、うれしき事かな。地蔵の歩かせ給はん所へ我を率ておはせよ」と言へば、「我に物を得させ給へ。イ やがて率て奉らん」と言ひければ、「この着たる衣奉らん」と言へば、「いざ給へ」とて隣なる所へ率て行く。

尼よろこびて急ぎ行くに、そこの子にぢざうといふ童ありけるを、それが親を知りたりけるによりて、「ぢざうは」と問ひければ、親、「遊びに往ぬ。今ウ 来なん」と言へば、「くは、ここなり。ぢざうのおはします所は」と言へば、尼、うれしくて紬の衣を脱ぎて取らすれば、エ 博打は急ぎて取りて往ぬ。

尼は「地蔵見参らせん」とてゐたれば、親どもは心得ず、「などこの童を見んと思ふらん」と思ふほどに、十ば

かりなる童の来たるを、「くは、ぢざう」と言へば、尼、見るままに是非も知らず臥し転びて拝み入りて、土につぶしたり。童、楛を持て遊びけるままに来たりけるが、その楛して手すさびのやうに額をかけば、額より顔の上まで裂けぬ。裂けたる中よりオえもいはずめでたき地蔵の御顔見え給ふ。尼拝み入りてうち見あげたれば、かくて立ち給へれば、涙を流して拝み入り参らせて、やがて極楽へ参りけり。されば心にだにも深く念じつれば、仏も見え給ふなりけりと信ずべし。

（『宇治拾遺物語』）

〔注〕 ○博打――ばくちうち。　○楛――木の細い若枝。

設問

(一) 傍線部**ア・イ・オ**を現代語訳せよ。（各10㎝×1行）

(二) 「来」（傍線部**ウ**）の読みを記せ。（14㎝×1行）

(三) 「博打は急ぎて取りて往ぬ」（傍線部**エ**）とあるが、「博打」はなぜこのような行動を取ったのか、説明せよ。（14㎝×1.5行）

(四) この話の語り手は老尼に生じた奇跡をどのように意義づけているのか、説明せよ。

《出典＝東京大学・98年》